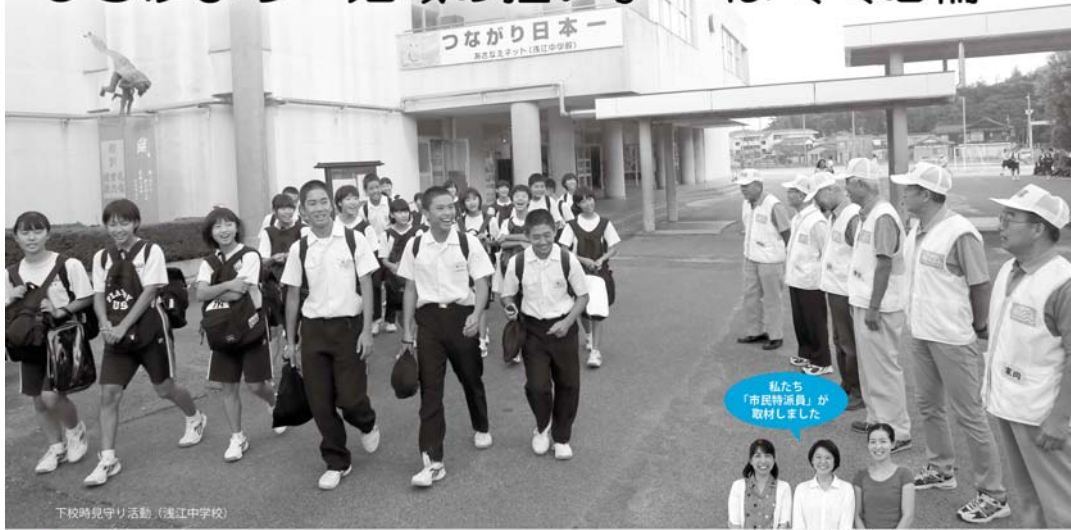


光市記者発表資料

平成29年5月24日

件名	平成29年全国広報コンクールでの受賞について
内容	<p>公益社団法人日本広報協会が主催する「平成29年全国広報コンクール」において、県の推薦を受け出品した広報「ひかり」が下記のとおり受賞しましたのでお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 受賞結果 広報紙（市部）入選（平成22年の受賞以来2回目） 詳しくは、日本広報協会のホームページをご覧ください。 http://www.koho.or.jp/contest/zenkoku/2017_result.html</p> <p>2 受賞した広報紙 （1）掲載号 平成28年10月25日号（28頁） （2）特集 「ひろげよう 地域の担い手 はぐくむ輪」 （3）内容 本市の先進的なコミュニティ・スクールの取り組みを紹介 掲載内容（抜粋）は別紙のとおり</p> <p>3 全国広報コンクールの概要 全国の都道府県と市町村の広報紙、広報写真、ホームページ等を対象にしたコンクールであり、広報担当者の技術向上を目的に毎年開催している。光市は県内の市町から応募のあった広報紙の中から山口県広報連絡協議会の推薦を受け、全国広報コンクールで審査を受けていた。</p>
問合せ	担当課・係 広報統計課広報広聴係 担当者 繁富 由佳（0833-72-1409）

ひろげよう 地域の担い手 はぐくむ輪



下校時見守り活動（浅江中学校）

▲濱谷利夫子さん（宝積）、河村淳子さん（光井）、由井佳代さん（浅江）

なぜコミュニティ・スクールが求められているのか

皆さんは「コミュニティ・スクール」という言葉を聞いたことはありますか。一言でいえば、学校を核にして地域の人々が集い、学校も家庭も地域もみんなが元気になることを目指す取り組みです。

子どもの数が全国的に減少する中、本市においても現在の児童生徒数はピーク時の半数以下になっており、少子化への対応は急務となっています。また、核家族化や共働き世帯の増加など、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化しています。

その一方で、人々が生涯にわたり、いつでも、どこでも、自由に学ぶことができる生涯学習の気運は高まっており、地域社会における自主的・自発的な学習機会の充実とともにその拠点づくりが重要な課題となっています。

今回は私たち市民特派員が、各地域の特色を生かしたコミュニティ・スクールの取り組みを取材し、光市の教育やまちづくりについて考えてみたいと思います。

コミュニティ・スクールの取り組みの一部をご紹介します



▲教育フォーラム（国防小学校）
コミュニティ・スクールの取り組みの発表とともに、地域の人と一緒に合唱を披露しました。

▲夏休み料理クラブ（東崎小学校）
郷土料理「なすそうめん」と、地域の人が製作した押し寿司の型を使って料理を楽しみました。

▲花の日参観日（鳥田中学校）
持ち寄った花を地域の人が生け、教室に飾るとともに授業の様子を見守ってくれます。

コミュニティ・スクールとは

「学校運営協議会」を設置した小・中学校のことをいい、本市の市立小・中学校での設置率は100%を誇ります（全国は9%）。

学校運営協議会では、教育委員会から任命された保護者・地域の人が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりします。学校のこれからは、学校・家庭・地域が一層になって考え、子どもたちの豊かな成長を支えていく仕組みです。

～地域とともにある学校づくりをめざして～



特集 市民特派員レポート ひろげよう 地域の担い手 はぐくむ輪



1 サマースクール（浅江小学校・浅江中学校）



小学生の学力向上のため、中学生や高校生、地域の人などが算数プリントの丸付けボランティアを行い、分からない問題を丁寧に教えます。

2 下校時の見守り（三輪小学校）



子どもたちが安全に下校できるように、見守り隊の人や先生が通学路に立ち、「おかえり」「今日の学校は楽しかった?」とやさしく声をかけてくれます。

3 まちたんけん（室積小学校）



校外学習の一環として、自分の足で校区内を歩き、改めて室積のよさを見つけます。危険のないよう一人ひとりを学校ボランティアが見守ります。

コミュニティ・スクールの取り組み 子どもたちのある1日の流れに沿って、市内の小・中学校で取り組んでいるコミュニティ・スクールの活動をご紹介します。



3 給食を一緒に（岩田小学校）



食を通して世代間交流を図り、一緒に食べる楽しさを体験します。「おいしいね」「しっかり噛んで食べようね」と会話も弾みます。

2 授業の見守り（光井小学校）



先生の言ったことがうまく伝わっていない子どもなどに対し、やさしく声をかけるなど、地域の人が見守る授業の様子を見守っています。

1 みついの日（光井小学校・光井中学校）



小・中学生、地域、保護者の協働で行っているあいさつ運動。雨の日も風の日も、あいさつを交わす姿が清々しく、活気にあふれています。

学校と地域が手を組んで、「地域とともにある学校」をつくるためには、一人でも多くの皆さんが保護者に学校づくりに参加していただく必要があります。その橋渡し役として、統括コーディネーター（次頁参照）の役割がますます重要になってきます。

子どもたちの笑顔。地域全体に学校と地域が手を組んで、「地域とともにある学校」をつくるためには、一人でも多くの皆さんが保護者に学校づくりに参加していただく必要があります。その橋渡し役として、統括コーディネーター（次頁参照）の役割がますます重要になってきます。

例えば、小・中学校が近接する光井地域では、「みづいの日」（7月）参観日、豊かな歴史・文化の発信の場として「まちたんけん」（上記参照）など、地域の特色を生かした取り組みが数多く見られます。こうした取り組みにより、①学校運営の質の向上、②地域の子どもの成長を促す、③子どもたちの意欲の高まり、④子どもたちの居場所を大切にする気持ちが高まるといった効果が期待されています。

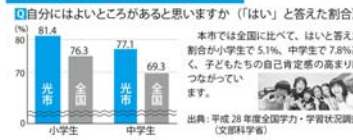
市では、故郷を大切にする気持ちと生きる力を育む学校教育を推進しています。本市の市立小・中学校で取り組むコミュニティ・スクールの活動について、市教育委員会の山口CSコンタクトの本木さんに話を伺いました。

学校



学校教育課 本木 育夫さん

データで見るコミュニティ・スクールの成果



流し、地域の「目」として活躍しているという自覚が高まり、ふるさと光市への愛着がわくきっかけとなります。同時に子どもたちの笑顔が地域に広がることで、地域全体も元気になるという「WIN-WIN」の好循環が形成されています。

未来を切り出し、課題を解決する力を備える必要があいさつ運動。雨の日も風の日も、あいさつを交わす姿が清々しく、活気にあふれています。

地域

わたしたちと一緒に学校と地域を盛り上げてみませんか

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てる環境を整備するため、各小・中学校で子どもたちを見守る学校ボランティアを募集しています。子どもたちの授業の見守りや、地域に伝わる話などを教えてみませんか。
詳しくは、各学校にお問い合わせください。



お待ちしています!

学校にとって故郷に誇りを持つ子どもを育てるためには、地域の人が欠かせない存在になっています。学校と地域をつなぎ、調整役として各中学校区で活躍しているのが「統括コーディネーター」です。各地区の様子などについて、統括コーディネーターの皆さんにお話を聞きました。

■あさなえネットで子どもたちの笑顔と一緒に増やしませんか



浅江中学校区 金子 功一さん

浅江地区は学校の空き教室を使った地域の活動ルームがあるなど、子どもを中心にした学校・保護者・地域の協働連携が定着しつつあります。中学校で開催している大人を対象とした英語教室では、実際の英語の授業に参加するなど、学校がすべての人にとっての学びの場となっています。
子どもたちは、多くの人と交流をもち、ふるさとの誇りを胸に、豊かな心を育ててほしいと願っています。



▲生徒と同じ教科書を使って英語の勉強中(浅江中学校)
▲地域の人が木工教室の先生(浅江小学校)

■お互いが切磋琢磨していい関係を築いています



島田中学校区 河村 昌夫さん

島田中学校には、4つの小学校から子どもたちが集まります。中学生が地域の行事に参加する時は、出身校区以外の行事にも積極的に参加してもらえよう工夫しています。「他の地区はこんなことやっていたよ」といった情報共有が図られ、地域全体の切磋琢磨につながっています。
昨年発足した「学校支援ボランティアバンク」の参加者とともに、島田のよさを生かした取り組みを進め、学校を盛り上げていきたいです。



▲地域の人と取り組む花いっぱい運動(三井小学校)
▲すもう大会(上島田小学校)

■室積でしかできないことをたくさん経験してほしい



▲100匹を超えるテヌメが獲れ、保護者も大喜び



室積中学校区 岩本 政幸さん

室積の海や魚に親しんでほしいと、小・中学校の保護者などが中心となって、親子と地域と一緒に参加できる地引き網体験を開催しました。室積伝統の秋まつりにちなみ「エンヤエンヤ」の掛け声に合わせて、みんなが網を引続け、体験を通して一体感も生まれました。
保護者にも参加してほしいので、地引き網以外にも、親子で参加できる行事を休日に開催しています。ぜひ積極的に参加してほしいと思っています。

■子どもと地域がふれあう機会を増やしていきたい



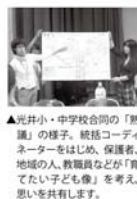
大和中学校区 田中 道治さん

「大和」の名と、郷土への愛着を育てるため、親子と地域が一緒になって、大和中学校の体育祭で、やまと音頭を披露しました。やまと音頭を通して、子どもと地域の人の絆が一段と深まったように感じます。
私にとって地域の子どもたちはとても大切な存在です。今後はコミュニティセンターなどと協力して、大和地区の連携を深めて、子どもたちを地域全体で育てていきたいですね。



▲やまと音頭を真剣に練習する子どもたち(若田小学校)
▲大和中学校体育祭の様子

■地域の持つ力を学校支援に生かしていきたい



▲光井小・中学校合同の「熊鷹」の様子。統括コーディネーターをはじめ、保護者、地域の人の教職員などが「育てたい子ども像」を考え、思いを共有する。



光井中学校区 河村 聡子さん

コミュニティ・スクールの取り組みが始めてから、小・中学校と地域の結びつきが強まり、学校と地域が相互に相談しやすくなったと思います。
学校から新しい取り組みを行いたいとの提案に対しても、地域の皆さんは「いいね、やってみよう」と意欲的な人が多くいるように思います。
地域も、子どもたちのために何かができることがうれしくて、まち全体の活気につながっているように感じます。



■あいつの木運動(島田小学校) 登校で1週間気持のよいあいつができれば、「あいつの木」に花が咲きます。「たくさんの方が咲いたね」と子どもたちもうれしそうです。

■石城山に伝わる紙芝居上演(塩田小学校) 郷土学習の一環として、市民団体「光紙芝居」が地域に伝わる話を紙芝居で上演しました。子どもたちも興味深々です。

子ども

「コミュニティ・スクールの生徒は子どもたちです。地域の子どもたちを通じて、子どもたちも大きく成長させていきます。」



山本 莉紗さん
島田小学校6年

登下校のときに「おかえり」「寒いから風邪ひかないよ」「ねえ、声をかけてもらえると、すごくあたたかい気持ちになります。」

私も大人になったら、地域を支える人になりたいと思います。

保護者

「子どもを見守る安心感。地域全体で。」

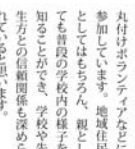


野村 莉花さん
光井小学校6年に通うお子さんの保護者

子どもたちが地域の皆さんと関わるようになってから、あいつつ身だしなみや、基本的なことがこれまでもより出来るようになってきたと思います。
先生や私たち親以外の大人との関わりの中で、故郷のことを学びながら、人と

保護者

「学校は子どもたちの輝いた笑顔に会える場所。地域のみなさんに大切に。」



野村 莉花さん
光井中学校1年に通うお子さんの保護者

子どもは、地域の「宝」である子どもたちを地域で協力し、育てていく仕組みが定着しつつあります。その結果、子どもたちの地域への愛着や感謝の思いが生まれ、地域貢献という空気に、実を結んでいます。
同時に、子どもたちの笑顔が、大人たちに伝わることで、大人たち自身も元気に



野村 莉花さん
浅江中学校3年

地元の人は、私が小学生の時から温かく見守ってくれた身近な存在です。私たちが安心して学校生活を送ることができ、地域での活動も、おかげさまで、深まっています。
また、色々な行事にも一緒に参加してくれて、名前を覚えてくれる方のおかげで、そんな温かい感じが、あたたかいです。
これから、今まで大切にしていたことや、地域行事への参加や、市内の病院で助産師になりたいという夢を叶えることで、近

「おたけいあいつつ。嬉しいです。」

特別選員レポート 取材を終えて

今回の取材を通して「学校は敷居が高く、関係者以外は入りにくい」というこれまでの印象が大きく変わりました。
光市では、地域の「宝」である子どもたちを地域で協力し、育てていく仕組みが定着しつつあります。その結果、子どもたちの地域への愛着や感謝の思いが生まれ、地域貢献という空気に、実を結んでいます。
同時に、子どもたちの笑顔が、大人たちに伝わることで、大人たち自身も元気に



▲光井中学校の光梅タイムの様子。地域のみなさんを歓迎して、紙しばいや舞踊、武蔵などの伝統文化を学んでいます。